

自由奇稿

## インターネット生活を楽しまう

坂口一弘

「パソコンは高齢者社会のライフラインです。パソコンは体の衰えを補い、孤立しないための仲間を作り、ゆつくり楽しく生きて行きますよ……。」これは、東京にある「コンピューターばあちゃんの家」のキャッチフレーズである。

今はパソコンなしの生活は考えられないほどのインターネット社会になっている。携帯電話等でもそれが可能になっている現在、我々退職世代も乗り遅れてはいられない……。

私がパソコンを手にしたのは、今から十四年前（五十四歳）である。上の子が大学を卒業して仕送りが半分になったのを機に、自分の生涯学習への投資として始めた。まだ、職員室で自分のパソコンを

使う職員はほとんどいなかったし、学校にインターネット回線も引かれてないころだった。

典型的なメカ音痴の自分は、学校に二台ほど配布されたパソコンにも触ったことがなかった。しかし、インターネットには興味があった。そのきっかけは、当時のめり込んでいた「二人歩きの登山」のためにも情報が欲しかったことである。ホームページ閲覧とメール送受信から始めた。パソコンの設置から使い方で、詳しい友人に教えてもらいながらの超ドタバタ劇が今でも懐かしい。発信する側に戻ったらもっと楽しいだろうと、その秋に開設したホームページ「一人歩きの北海道山紀行」、一回目の大腸癌手術を機に入院先のベッドから毎日更新し、

現在も日常の生活ぶりを発信し続けるブログ「癌春（がんばる）日記」、さらには、十二年前に開設し、今では会員数が六百人もいる「北海道の山メーリングリスト」等を媒介とした海外までも含めた多くの方々との交流が、現在のインターネット生活の中心である。

それらのお陰で、苦楽を共にできる山仲間も増え、登山のステツブアップへと繋がった。また、途絶えていた教え子との交流や再会も多くなった。さらには、新聞や雑誌にも取り上げられたり、投稿・執筆依頼の機会も増えた。

インターネットは、その人のニーズ次第では利用の仕方や楽しみ方は無限に近いほどある。

自分の場合は、日々の生活でも、何か調べものがあるときやほんの些末なことでも疑問が湧いたり、興味を抱いたりしたことはすぐに検索を入れて情報の入手や解決を図っている。このほかに、旅行や観光地の情報、ホテルの予約、チ

ケットの購入、本の購入、価格の安いものを探してのネットショッピング、天気予報、ニュース、列車や高速道路の乗り継ぎ、登山に使う地形図のダウンロードと携帯用GPSとの接続……。また、メカに疎いパソコン操作やトラブルも検索するとほぼ解決できる。

さらに、オンラインでゲームを楽しんだり、福祉・介護や健康に関する悩みの解決や相談に役立てたりする人も多い。

このように、インターネットは、時間や距離の壁を越えて世界中の情報を得るだけでなく、新しいコミュニケーションツールとしても大いに活用できる。しかし、陽の部分だけではなく、陰の部分もあるので、慎重に対処することも大切である。

さて、みなさん、最近パソコンも非常に安くなりました。ポケ対策のためにも、指と頭を使って、残り少ない？人生、もうひと花咲かせてみませんか？